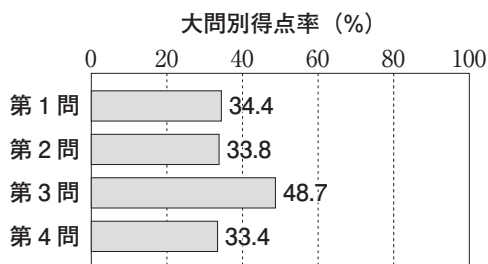
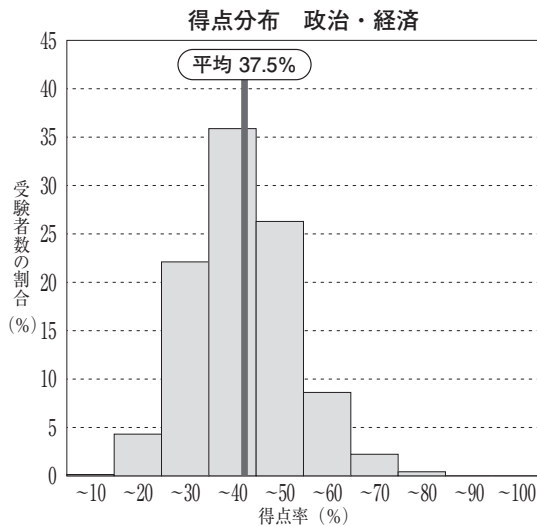


政治・経済

教科書の基礎知識を身に付け、全体系を把握できるようにしよう。

I. 全体講評

「第1回2月センター試験本番レベル模試 政治・経済」は、平均点が37.5点であった。基礎知識が身に付いていない箇所が多く見られたが、初回でもあるので当然のことであろう。現在の社会事象を理解するには、世界的な視野と歴史的経緯まで広げて考える必要がある。つまり地理的・歴史的な時間・空間の広がりの上に、現在の諸問題を理解して、一つの世界・社会の見かたを育てるのが「政治・経済」なのである。これからも視野の広がりを意識しながら学習しよう。



II. 大問別分析

第1問 日本の戦後政治

戦後日本の政治・経済の変化を大きな流れとして把握しよう。

得点率は34.4%で、低調であった。特に問9 [9]は、正答率5.0%という驚くべき結果であった。「新自由主義」の国際情勢の影響から、中曽根内閣、小泉内閣、さらには「アベノミクス」にもつながる民営化や規制緩和路線を一つの流れとして理解しておこう。問3 [3]は、正答率10.3%で、これも極端な低得点。戦後の経済復興期と高度経済成長の時期の内閣と重要事項の流れを理解しておこう。「戦後経済史」は頻出事項である。年号や細かな事項ではなく、前後関係や大きな時代の動きとして理解したい。

問1 [1]は正答率26.6%で低調。①を正文と考えた受験者が30%いたというのはショッキングな結果である。問6 [6]は正答率28.5%でこれも低調。70年代初期は、アメリカの国際戦略が大きく転換した時期で、ニクソン・ショック(71年)、米中接近(72年)、第1次石油危機(73年)をはじめ、国際情勢の変化などを大きな流れとして体系的に理解し、歴史的前後、因果関係をしっかり頭に入れること。

第2問 難民問題

地域紛争の地理と宗教・国際機関などと時事事項の基礎を固めよう。

得点率は33.8%で、かなり低調であった。特に悪かったのは、問7 [17]の難民問題。正答率は13.6%であった。④の「経済的難民」を選択した者が64%もいた。難民条約の規定に経済難民は含まないことは基礎知識である。①の「インドシナ難民」の語は聞き慣れなかったかも知れない。問4 [14]は、正答率19.1%。「インティファダ」を理解していなかったようだ。用語集などを援用して、不明な用語を調べる習慣を身に付けよう。また、イスラエルをイスラーム教国と思っている者が

多いのは意外だった。戦後のイスラエル誕生の背景も知っておこう。問2 [12]は、正答率 33.7%。「国連人権理事会」はやや高度な事柄だが、消去法で正答できる問題である。問8 [18]は正答率 33.7%。③の「集団的自衛権」は、日本の防衛政策にも関連してくる内容である。

第3問 農業問題

日本の農業政策と対米政策を歴史的流れとして把握したい。

得点率は 48.7% で、全大問中では突出した高得点であった。しかし、問4 [22]は正答率 31.7% であった。②の選択率が正答とほぼ並んでおり、「ベティ＝クラーク」と「ホフマン」の名前は知っているが、その理論の内容を混同したようだ。「政治・経済」に登場する思想家は多くないので、その理論はしっかり押さえない。さらに、問7 [25]は正答率 31.4% であった。年代順に並べる問題は、年号の暗記ではなく、それぞれの事象の背景や因果関係が問われている。BとCで迷った受験者が多かったようだが、この二つの順番は因果関係から論理的に説明できるものである。問5 [23]の需要供給曲線の問題はやや高度だが、正答率は 44.6% と健闘していた。

第4問 資本主義と社会主義

冷戦終結後の世界を大きな歴史的な流れで理解しよう。

得点率は 33.4% で、全大問中で最低水準であった。特別に極端に低レベルの事項はないが、総じてやや弱い問題が多かった。問7 [33]は正答率 20.3% で、盲点を突かれたようだ。②の選択率が最も高く、35.0% あったが、これは OECD も IBRD も理解していないということ。国際経済分野の学習は後半になりやすいが、苦手意識を持たないように今から準備しておこう。問3 [29]の正答率は 21.0%。センター試験対策としてはこの事件の詳細を知っておく必要はないが、選択肢のポイントはすべて重要事項である。問5 [31]の正答率は 28.1% で低調。②の選択率が 35.5% と最も高いが、「搾取することの正当性」などとマルクス主義者は絶対に言わない。社会主義はすでに歴史上の思想になりつつあるが、経済史においてその存在はこれからも無視できない。問2 [28]の正答率は 28.9% で低調。③の選

択率が 40.5% もあるが、正誤判定できず、憶測で選んだものと思われる。自信を持って②を選べるよう、学習を進めたい。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆教科書を中心に全体の体系をつかむ。

センター試験は、基本的には教科書の範囲から出題される。今回のテストでも、まず、解説をよく読み、教科書の該当事項を体系的に理解すること。その際、関連する箇所まで広げて勉強し、脚注の細かな解説にも重要事項があるので、意識的に目を通す習慣を付けよう。

また、現実のニュースと直結する科目でもある。ニュースを絶えず教科書や用語集で確認する姿勢を持ち、疑問に遭遇したら、すぐ教科書の該当ページを開くことができるようになる。

◆戦後の政治・経済の流れを把握しよう。

政治経済は、意外に歴史事項が多く出題される。しかし、年号を暗記する場面は少なく、前後関係と内容を問う問題が多い。関連事項の時系列・時代の流れと因果関係を理解することが重要である。

◆次回の模試に向けて。

まず、模試・過去問に早くから目を通し、目標・焦点を定めること。毎回の模試の解説を熟読し、教科書や参考書、用語集などで理解を確かなものにしておこう。まだ始まったばかりだが、早くから大まかな予定表をつくり、夏頃までには全分野を一通り把握し、教科書の該当箇所を即、開らせる様になりたい。また、参考書及び用語集は必携であり、メディアによる時事問題・ニュースも理解できる様になりよう。